

令和6年度第1回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和6年7月3日（水）10：00～11：40
場所	恵庭市役所 第2・第3委員会室
出席者	小磯 修二（北海道文教大学 地域創造研究センター長） 細川 拓真（恵庭商工会議所 青年部会長） 蠣崎 こず恵（北海道ハイテクノロジー専門学校 学部長） 安藤 隆善（北洋銀行 恵庭中央支店長） 岡部 利夫（北海道銀行 恵庭支店長） 梶山 征廣（北海道新聞社 千歳支局長） 宮崎 圭介（連合北海道恵庭地区連合 会長） 川原田 聡（千歳公共職業安定所 所長） 矢野 敦子（北海道石狩振興局 地域創生部長） 中村 敦史（中央コンピューターサービス株式会社 地域デザイン事業部 CX推進課長）
議事	(1) 恵庭市総合戦略及び恵庭創生懇談会について (2) 第2期恵庭市総合戦略 数値目標・KPIについて (3) 令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金 交付実績及び効果検証について (4) 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金 採択状況について (5) 第3期恵庭市総合戦略（概要版）について (6) 恵庭市人口ビジョンの改訂について (7) その他

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
委嘱状 交付	●市長 委嘱状交付
確認	●企画振興部次長 欠席者について説明
自己紹介	恵庭創生懇談会新規委員あいさつ 委員自己紹介（新規委員）

<p>市長 あいさつ</p>	<p>●市長</p> <p>本懇談会は、恵庭のまちづくりの様々な施策や、指針を作っていただく会議であり、今年度の4月には第3期恵庭市総合戦略を策定しました。これからは、この戦略の進捗について、検証を含めながらフォローしていただくことになると思います。</p> <p>また、人口ビジョンを2019年、令和元年に策定しました。この人口ビジョンでは令和2年、今から4年前に恵庭市は人口のピークを迎えて、それから人口が減っていくことを想定しておりましたが、おかげさまでそれ以降も人口が増加しています。このようなことから、今年度、皆様にご意見をいただき、人口ビジョンの改訂を考えております。</p> <p>恵庭市の総合計画は現在第5期であり、来年度で計画期間が終了することから、今年度、来年度の2か年で第6期総合計画を策定します。総合戦略との関係は、総合計画が上位計画で、具体的に総合計画の目標を実現させるのか、というものが総合戦略になります。この総合戦略については、総合計画と整合性をとりながら、毎年予算を作り、実行力を高めていきたいと思っております。</p> <p>この総合戦略には様々な取り組みが集まっておりますが、恵庭市を巡る環境が変化しており、毎年のように見直しを行っても良いと考えております。総合戦略は策定しておりますが、千歳市のラピダス、北広島市のエスコフィールドを含め、掘っていないところもありますので、その全てを盛り込んでいるわけではありません。具体的な動きが出てきたときに、臨機に総合戦略を見直しながら、適切な対応をしていくべきと考えており、そのため、本懇談会は恵庭のまちづくりの方向性を形作る極めて重要なものと考えております。皆様の周りの情報提供、ご意見をいただきながら総合的なまちづくりを考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>確認</p>	<p>●企画振興部次長</p> <p>配布資料の確認</p>
<p>会長 あいさつ</p>	<p>●会長</p> <p>本懇談会のスタートが平成27年で、もう10年ほど経ちますが、スタートの時から本懇談会の会長を務めております。</p> <p>昨年度から、恵庭市にある北海道文教大学内の地域創造研究センターの活動も担わせていただいております。ますます恵庭市と深く関わらせていただいております。市長からお話がありましたが、新しい総合計画の策定の動きもありますが、恵庭市をめぐる環境はかなり大きく変化しています。それらをどう受け止めて恵庭のまちづくりを進めていくのか、皆様のそれぞれ</p>

	<p>れの立場で、目指すべき方法や課題、可能性といった点について忌憚のないご意見をいただくというのが、本懇談会の大きな役割だと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
議事	<p>●事務局</p> <p>議題</p> <p>「(1) 恵庭市総合戦略及び恵庭創生懇談会について (2) 第2期恵庭市総合戦略 数値目標・KPIについて (3) 令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金 交付実績及び効果検証について (4) 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金 採択状況について (5) 第3期恵庭市総合戦略(概要版)について (6) 恵庭市人口ビジョンの改訂について」 説明</p> <p>●会長</p> <p>資料の内容についてのご質問やご意見だけではなく、恵庭市をめぐる色々な動きの中で、地方創生、恵庭の創生に向けて取り組んでいくべき点についてもお考え、ご意見をいただければと思います。</p>
意見交換	<p>●A委員</p> <p>人口推計より増加しているというところで、まちづくりの効果を感じています。</p> <p>また、住宅地や商業地、工業団地を造成する話も出ております。賃貸の住居がかなり不足しているという情報もある中で、例えば賃貸アパートに対する融資を積極的に行ったり、地区によって考え方は異なりますが、恵庭地区は伸びると思いますので、そういった地区では積極的にアパートローンや住宅ローンを行おうという話が出ています。まちの動きと合わせるような形で、金融の側面から支援していければと考えており、こういった会議の中で、我々の動きについてもお話をしたいと思っています。</p> <p>●B委員</p> <p>A委員からもお話がありましたが、我々の金融機関は、アパートローンの融資が他の金融機関よりも厳しい面がありました。今回、ラピダスが進出してくることにより、住居が足りないことが分かっているので、ラピダスに絡む地区はローンを積極的に行うというように、会社の方針が変わっています。恵庭もラピダスの影響があると思いますので、居住環境の側面をサポートさせていただきたいと思っています。</p> <p>お客様とお話している中で、ラピダスができることによって雇用の面で人の取り合い、人を持っていかれるというところを懸念されているようで</p>

意見交換	<p>す。賃金をラピダスと同じ水準に大きく上げればいいのですが、とてもハードルが高いことだと思いますので、そこを市として補助金なのか雇用の補助なのか分かりませんが、支援を検討いただけないかと思っています。</p>
	<p>●C委員</p> <p>恵庭市にある学校なので、規模は違いますが、学校と恵庭市の取り巻く環境はとても似ていると思います。出生率の関係で18歳人口がどんどん減っているという点は、私達の学校においては入学者の確保がとても難しく、退学者がいる厳しい状況で、恵庭市においては18歳から就職を機に市を離れてしまう状況が、学校と市の課題がリンクすると思っています。</p> <p>説明を聞いて気になった点は、アプリケーションとしてLINEなど、手段として色々サービスを提供することはとても大事なことだと思いますが、提供された後の恵庭市がどうなっていくのか、それを導入することによってどんなまちになっていくのかという、輪郭がクリアになっていないという印象があります。</p> <p>恵庭市らしさを伝えることで、恵庭市に移住してもらうことに繋がると考えています。これは私たちも、自分たちの学校らしさをいつも模索しているので、取り組みが横に繋がって、恵庭市はこういうまち、ということが広く周知されていけばいいと思いました。</p>
	<p>●D委員</p> <p>YEGフェスタというイベントは恵庭市のために、恵庭市や北海道に戻ってきたいと思っていただきたいという理念で行っています。市から助成金をもらっていますが、他のイベントも含めて、市のタイアップ、広告や宣伝が欲しいと思います。</p>
<p>●E委員</p> <p>デジ田交付金を活用し、LINEとアプリ「えにわか」の2つのツールで情報発信を行っており、アプリは来年度で交付金が終了になりますが、その後も継続して使っていくと思います。LINEとアプリの2つを活用して進めるのは取り組みとしてはあると思いますが、交わる仕組みになっていないことがもったいないと思います。同じ情報を発信することもあると思いますが、その情報の整合性について気になりました。両方のKPIはご説明にあったとおり、うまく進んでいるとは思いますが、ここをクロスしてどのように発展していくのかというのが今後の戦略にも重要になってくると感じています。</p> <p>質問なのですが、LINEとアプリの住み分けはどのようになっているのか、R5デジ田交付金デジタル実装タイプの実績を教えてくださいたいです。</p>	

意見交換

●事務局

LINEとアプリの住み分けについて、市としてホームページをはじめ、あらゆる手段で、同じ情報であっても市民に周知を行っています。機能に関しては、担当部署間で常に情報共有しており、強みのある方に持っていくことにしております。

デジ田交付金デジタル実装タイプのうち、電子入札システム導入事業は年度末から使用開始されたことから、R5年度の実績は2件に留まりましたが、R6年度は大型工事等を対象に15件程度を予定しております。

書かない窓口導入事業につきましては、2月14日から証明書の発行に限り実施しております、2月から5月までの4ヶ月間、で1万件程度の実績となっております。

●E委員

LINEのメニューにアプリがあるということ載せて、アプリの方も同様に載せ、双方で周知することによって相乗効果があると思うので、参考にしていただければと思います。

●F委員

若者の地元定着は非常に重要で、学生に対して多様な選択肢を示すためにも、地元企業から新卒向け求人をいただくことが重要だと考えます。

本日の北海道新聞で、有効求人倍率が0.68倍という記事が出ていますが、この数字は恵庭・千歳地域の情勢とずれがあると思う方もいらっしゃると思います。統計上、求人数は求人を受理するハローワークでカウントするのですが、事務の集中化等で、札幌や東京の本社でこちらの求人を出す求人者もいることなどから、恵庭・千歳地域を就業場所とする求人は、統計上の求人数より月にして300人程求人数が多い状況にあります。統計上の数値は全国統一で集計している数字なので、恵庭・千歳地域だけ集計方法を変えることはできませんが、現実的な有効求人倍率は、0.68倍という数値よりも高いと捉えておりますので、皆様にはご承知おきいただきたいと思っております。

また、外国人労働者の数もとても増えておりまして、雇用管理指導のため、現在ハローワークでは外国人を雇用している事業所を訪問しております。恵庭市を含め千歳公共職業安定所（夕張出張所管内含む）全体の人数になりますが、外国人労働者の数はこの1年間で300人以上増えております。工業地帯であり製造業が多いので、在留資格は技能実習が非常に多い状況です。

外国人の受入れと併せて「共生」も重要なテーマになると思っております。私の前任地は浦河でしたが、競走馬の調教のためにインドの方がたくさん

意見交換	<p>いらっしゃいました。宗教、文化、食生活の違いはあるものの、役場の地域おこし協力隊の方がクッションになって、インド人とまちの生活を繋いでいました。</p> <p>AIの進展については人材不足に役立つ面はあると思いますが、働き方が大きく変わる可能性がありますので、そこは注視していく必要があると感じています。</p> <p>●会長</p> <p>外国人受け入れの点は大事なことだと思います。人手不足、AIの進展、デジタル化をどう考えて進めていくのかは、極めて難しい政策テーマになると思います。</p>
	<p>●G委員</p> <p>土曜授業延べ日数がKPIに入っていますが、実際に土曜授業をすると子どもはテンションが低く、増えても子どもの身にならないと思っています。それよりも、北海道文教大学からの教育実習生や、ハイテクの学生やセントラルから体育の講師として来てくれるときがありますが、地元に住んでいる方からお話を聞くことによって、子どもたちのやる気やキャリアに繋がるかもしれないので、もっと広がればいいと思っています。</p> <p>恵み野北と東は年によって人口が多い地域が順繰りしていると思います。子どもは減っていますが、教員は足りないと感じ、近所に住んでいる支援員さんが子どもがいる時間にお手伝いに来てくれることがあります。増えるといいと感じています。子どもたちはタブレットを1人1台持っていますが、私たちは使い方の指導はできますが、タブレット自体には詳しくないので、繋がらないといった不具合には対応できないので、デジタル面での支援があればよいと感じています。</p> <p>学校の扇風機、スポットクーラー等の暑さ対策はありがたいと感じていますが、電子黒板、タブレット等もあり、コンセントの数が足りないと感じています。</p> <p>ご説明にあったデジタルドリルは、家でタブレットを使用してクイズ形式で楽しく取り組めているので良いと思います。</p> <p>●会長</p> <p>コンセントのお話がありましたが、再生可能エネルギー等の議論とあわせて、基本的には全体のエネルギーマネジメントシステムの議論が必要だと思います。</p>
	<p>●H委員</p> <p>人口推計は肌感覚ではもう少し上だと思っています。恵庭はラピダス進出の影響があり、交通も充実、教育は幼稚園から大学まで、病院もあり、</p>

意見交換	<p>札幌も近いので大学病院にも行ける、自衛隊があり、人口を下支えする安定感があり、美しい花のまちでもある。私はまちづくりを考えるときに井上ひさしさんの「吉里吉里人」という本を指針にしています。これは独立国家を目指す小説で、本質をついているなと思いながら何度も読み返していますが、そこに書いてある独立国家に必要な要素が恵庭に全部揃っていると思います。そう考えると、人口7万人を超えて、まだ先があると思います。推計をきっちりした上で、その土台の数字をベースにしながら政策を考えていくことが大事なことだと思いました。また、数字がずれるとどうしても政策にずれが出るというのは、人口減で苦しいとしながら、人口減の幅を甘く見ていると、5年後には1,000人、2,000人違うという問題が起きると思います。函館は、観光で潤っていて、活気があり、美しいというイメージでしたが、毎年3,000人以上減っています。そこで、そういうところが立てる計画を見たときに、人口推計が甘いのではないかと思った記憶があります。私は専門家ではなく、あくまでも直感的なイメージでしか言えませんが、そういうところを詰めたほうがいいと思いました。</p>
	<p>●副会長</p> <p> デジ田交付金の若者地元定着促進事業として、管内に大学が多いので、卒業しても残ってもらおうと続けているところですが、進捗を聞いている中で、小さい頃から地元を好きになってもらうことが大事だということで、下の世代、中高生、小学生も地域を好きになってもらうことが大事だと思います。</p> <p> 地域を好きになってもらうには、観光地を回ってもらうこともいいと思いますが、それだけではなく、子どもにも総合戦略を勉強してもらい、K P Iで伸びているところはまさに地域のいいところだと思うので、それを知ることで、自分たちのまちを知ることで好きになってもらえることもあると思います。北海道の総合計画でパブリックコメントをしたときに、中高生にアンケートを実施したところ、面白い意見が出ました。皆さん真剣に読んでいただいて、色々な意見が出て、北海道がこうなってほしいというのを考えてくれたので、総合計画や総合戦略は小学生には難しいかもしれませんが、中高生は概要版を教材にして勉強してもらうのも機会になると思います。</p>
	<p>●市長</p> <p> 恵庭らしさを表現というところで、公式LINEに「桜シェア」という、市民がきれいな桜の写真をスマートフォンで撮影して共有する機能を追加しました。そうするとたくさんの市民が、桜満開だよ、情報を発信してくれました。今は「花シェア」として、スズランが咲いたよ、とかそう</p>

意見交換

ということで恵庭の見どころを市民がつくりあげていくことを始めました。

公式アプリとLINEについては、公式アプリは昨年からスタートした、各店舗を回っていただくポイント機能が重点になると思います。公式LINEは市からイベント等の情報を積極的に発信するという、住み分けのようなものをしながら、両方を利用していただくことが大切だと思っています。

書かない窓口の利用が約1万件と説明がありましたが、非常に好評です。加えて、6月から住所異動も書かない窓口が導入され、ますます便利になると思っています。また、4月から住民票、印鑑証明は市役所で発行すると手数料が300円かかりますが、コンビニでは100円にしました。市役所に来なくても住民票等が取れるということで、市民の動きも変わってくるかと思いますが、ますますデジタル化を進めていきたいと思っています。

第3期総合戦略の15ページに「在住外国人の生活・困りごと相談、交流サロンの開設」とありますが、これはF委員からのお話にあったように、外国人の方は毎年とても増えています。去年に比べると300人ぐらい増えていまして、もう既に1,000人を超え、人口の1.4%くらいになっていますが、まだまだ増えるだろうと思っています。これは工場の技能実習生が多く、やさしい日本語講座やイベントも行っていますが、ここには、在住外国人の生活の窓口となる交流サロンの開設が必要ということ載せています。

また、G委員からお話のありました、土曜授業については、これからも教育委員会と相談しながら考えていきたいと思っています。

学校のコンセントのお話は、各学校のエアコン整備が順次、来年以降始まりまして、そうするとスポットクーラーがなくなりますので、少し改善されると思っています。

H委員からお話のありました人口についてですが、今の段階では、ラピダスが建設中ということもあり、定住人口に対する影響はありません。ただ、これから本格的な稼働が始まりますので、そのときの関連企業の動きによっては、恵庭にも従業員の方々が住みたい、工場を建てたいという可能性がありますので、それにしっかりと受け皿として準備を進めています。それに伴い、都市計画マスタープランをこうした状況に対応できるように見直しをしています。

また、人口推計はなかなか難しいところではありますが、状況を加味しながら、新しい人口ビジョンを考える必要があると思います。例えば、学校の生徒数が増える、商業施設は足りるのか、そういったことが起きて

意見交換	<p>慌てないように、総合戦略、総合計画などでしっかりと受け入れるような形にしていく必要があると思います。</p> <p>そのような変化が起きても、住みやすさ、花、本という恵庭の特徴を大事に、調和を考えながらまちづくりを進める必要があると思います。難しいことだと思いますが、地域創造研究センターのお知恵を借りながら、まちづくりを進めたいと思います。</p>
	<p>●E委員</p> <p>私たちは恵庭市のふるさと納税の業務を全般的に対応しておりますが、ふるさと納税の特産品をより知ってもらうことによって、恵庭市を感じてもらえるような機会をたくさん作ろうと、色々取り組んでいます。前回もご紹介したタキビコネクトというサイトについて、色々な事業者の紹介を載せているのですが、北海道に旅行に来たときに、その記事を読んでお店に寄ったという話も聞いています。ふるさと納税の制度は、形は変わっても、地域にプラスになると思います。</p> <p>6月上旬にデンマークへまちづくりの視察に行ってきました。デンマークは再生可能エネルギーの先進地なのですが、海外の企業がとある田舎の地域に来たときに何が起こったのかを聞いてきました。まさしく、北海道で言えば、この地域だと思うのですが、半導体はグローバルな話でもありますので、国内より国外の例を参考にした方が今後のまちづくりに活かせると感じました。企業が来ることによって、地域に人が増えますが、教育の面など色々な問題が出て、国としてどのような対応をしてきたのかを見てきました。私が行ったデンマークは北海道、恵庭と親和性があると思います、そのようなお話を今後どこかでできればと思っています。</p>
	<p>●会長</p> <p>同じような問題を抱えて取り組んでいる地域を参考にし、自らの問題にあてはめて考える方法は、とても大事なことだと思います。ぜひ情報提供いただきたいと思います。</p> <p>先ほど市長から「桜シェア」のお話がありましたが、これは大事な動きです。私は恵庭の大きな資源、力は市民力だと思っており、その市民力を活かすためのツールとして、デジタルの視点で、国の支援を活かしながら総合戦略に取り組んだらいいのではないかと思います。象徴的なのは、先ほどLINEとアプリのお話がありましたが、恵庭らしいデジタルの質を高めていく、市民力をうまく活かしながら、地域の活性化、まちづくり、魅力を高めていくといいと思います。そこに外国人が増えて、ラピダスが本格稼働し、海外の色々な先端産業のレベルの高い研究者や、企業人の交流が出てくるとと思いますが、それをうまく地域として受けとめられるかと</p>

意見交換	<p>というのは、これからの北海道の大きなテーマだと思います。市長のお話にもありましたが、ラピダスや関連する企業の動き、それに伴う人の動きを恵庭としてどう受け止めるかは、この地域の最大の問題です。この創生懇談会は人口減少に向き合い、次世代に繋ぐ地域政策を考えていくことがメインテーマですが、人口減少というマイナスの要因に向けた政策議論の中で、ラピダスの立地という、かなり飛躍的にプラスの要因が出てきて、そこで都市計画をどうするのか、その企業立地政策をどうするのか、人口政策を含めてどうするのか、誰も経験がないのです。恵庭は、誰もが経験したことがない状況に向き合っており、これからの取り組みは非常に大事な挑戦だと思っています。明日、韓国政府の経済産業研究院の研究者が、最先端の半導体産業が立地する地域の具体的な政策展開について私のところにヒアリングに来ます。これは象徴的なことで、ここで議論しているこのテーマは、アジア地域におけるこれからの新しい先端的な産業立地による地域政策のあり方につながる問題でもあります。</p>
閉会	<p>●企画振興部次長 閉会のあいさつ</p>